

住吉台小学校「校歌」

仙台市立住吉台小学校「校歌」

作詞 富田 博
作曲 櫻井辰祥

一 みどりの風が ふきわたる

朝のすがしい 住吉台

ふたばよ のびよ すこやかに

つばらな ひとみ かがやかせ

きょうを 元気に 鍛えていこう

泉が岳が よんでいる

二 小鳥のうたに とぶ雲に

ひかり あふれる 住吉台

若葉よ かおれ どこまでも

清らかな ところ みがく知恵

たしかな 生命 育てていこう

七北田川が ひびいてる

三 古い歴史の ふるさとの

めぐみ ゆたかな 住吉台

青葉よ しげれ 天高く

希望の つばさ 羽ばたかせ

未来へ 窓を 開いていこう

世界の空が 待っている

(昭和63年11月13日 制定)

作詞・作曲者の紹介

みどりの心を

富田 博 先生

歌声に夢を託して

櫻井辰祥 先生

みどりは平和のシンボル。和らぎ、安らぎの色です。そのみどりにすっぽりと包みこまれている住吉台小学校の校歌を作詞させていただいた幸せを、心から有難く光栄に思います。

ひとくちにみどりと言っても千差万別。これはど種類の多くある色も珍しいことです。黄緑、若緑、浅緑、薄緑、深緑、青緑……若竹色、わさび色、松葉色、苗色、草色、柳色、萌葱色……。その多彩なみどりを、住吉台小の児童のみなさんにたとえて、三つのみどりに代表させました。

一番は、身近の泉が岳を朝夕にながめて、足もとを確かめつつ伸びていく低学年のみなさんを「ふたば」にたとえて歌いました。二番は中学年のお友だち。山奥から太平洋へと流れ行く七北田川のせせらぎを聞いて生長する「わかば」のあなたです。そして三番は、高学年の仲間たち。亭々と繁る「あおば」。巨木になって、世界を平和の葉かげにやさしく包んでくれる、21世紀へ羽搏くみなさんです。

そんな気持ちを櫻井先生のすてきなメロディにのせて大空へ歌声をひびかせてくださることを祈っています。

<略 歴>

- 仙台市出身
- 昭和13年 宮城県師範学校卒業
- 昭和53年 仙台市立南材木町小学校長を最後に退職するまで県内の小・中学校歴任。

すばらしい大自然にかこまれ、しかも近代的な設備にあふれた住吉台小学校の校歌を作曲させていただき、大変光栄に思っております。

私もかつて泉地区の学校や教育関係にお世話になりましたので、とくに親しみをこめて、また心が弾む思いで作曲いたしました。

とかく「校歌」といえば、主として朝会や儀式などで歌われることが多いためか、何となく堅苦しいイメージになりがちですが、日頃から「歌わせられる校歌」でなく「歌いたい校歌づくり」をめざしている私としては、住吉台小学校の若々しく躍動する姿を、メロディやリズムに、また和声にもできるだけ表現するとともに、子どもたちが、いつでもどこでも口ずさみたくなるような、歌いやすさにも心がけたつもりです。

この校歌が、富田先生のすばらしい歌詞にもありますように、未来の窓を大きく開けて、つまり、もうすぐやって来る21世紀を超えて、永遠に歌いつがれますよう願ってやみません。

<略 歴>

- 東北大学教育学部臨教(音専)修了。
- 県内および仙台市内小学校教諭、宮城県教育研修センター指導主事、宮城教育大学講師、燕沢小学校教頭、宮城県泉が岳青年の家教育課長、根白石中学校長、宮城町教育委員会教育次長、遠見塚小学校長、南材木町小学校長などを歴任。